

2018 コープくらしのたすけあいの会 全体のつどい報告

1. 日 時：2018年4月5日（金）10時45分～14時00分
2. 場 所：コープあおもり本部集会室
3. 参加者：青森地域（5名）、弘前・黒石地域（3名）、八戸・三沢地域（8名）
むつ・下北地域（2名）、県社協（3名）会長・地連・事務局（3名）合計25名
4. タイムテーブル 司会：船橋収子副会長

10:45	開会挨拶：コープくらしのたすけあいの会 宮本達也会長
10:50～11:05	2017年度のまとめと2018年度方針について 県生協連常務理事 鎌田敦子
11:05～11:15	2017年度の地域の活動紹介 ・弘前地域より：瓜田昌子さん ・下北地域より：樋口芳子さん
11:15～12:00	地域における見守り活動の実践や活動事例について ①生協の見守り活動について ・県連より：県生協連三浦雅子 ・津軽保健生協より：組織部次長上野山美聡さん ②たすけあい活動における事例について ・青森地域より：遠藤輝子さん ・八戸地域より：相内恵美子さん ③福祉安心電話サービス事業について 県社会福祉協議会・地域福祉課 當麻千佐課長 ④たすけあい活動での見守りの流れについて：県生協連
12:00～12:30	昼食休憩
12:30～13:30	グループ交流（それぞれの活動体験事例から）
13:30～13:50	発表（各グループ5分以内）
13:50～13:55	グループ発表のまとめ 鎌田敦子常務
13:55～14:00	閉会挨拶 司会より

5. 概 要

		
介護保険制度の変更や2025年問題を前に、たすけあいの会の役割が一層高まっていると開会挨拶する宮本会長	2017年度は広報活動強化の中で会員の減少に歯止めがかかったため、2018年度は更に会員を増やそうと報告する鎌田常務	弘前・黒石地域の活動報告として、病気の男性が飼っている犬の散歩を継続して実施している事例を報告する瓜田さん

		
<p>むつ・下北地域で、転勤族の夫婦の赤ちゃんの沐浴介助を依頼され、お母さんと一緒に成長を喜び合えた活動事例を報告する樋口さん</p>	<p>津軽保健生協の組合員同士の見守りとして、機関誌の手配布での声かけ、班会、地域訪問活動等の活動を報告する上野山さん</p>	<p>活動日に不在で不安だったが、ご近所や事務局と連携することで緊急入院していたことがわかった事例を報告する青森地域の遠藤さん</p>
		
<p>八戸・三沢地域で、買い物支援の利用会員さんと連絡がとれず、緊急連絡先に確認したところ亡くなっていた事例を報告する相内さん</p>	<p>青森県社会福祉協議会の福祉安心電話の特徴や対象、サポート内容、費用やこの間の事例等について説明する當麻さん</p>	<p>4つのグループに分かれて、それぞれの活動の交流を行い、発表しました。若い人の登録が課題などの報告をする田戸岡さん</p>

6. 参加者の感想より

- ・たすけあいの会と見守り活動は、一緒の活動だと思います。今回はいろいろな報告を聞け、また福祉安心電話サービスのお話を聞いてシステムがわかって良かったです。
- ・近所で、地域で、活動メンバーで、情報を共有して利用会員に対応することが理想だと再確認しました。活動会員が安心して活動できるような環境整理が必要だと思いました。
- ・皆さん、利用会員さんの立場になって、いろいろ苦労していると思いました。活動会員はその時々において的確な活動にあたっていると思います。
- ・地域での見守りが大事になっている今の時代、行政も縦割りではなく、たすけあいの会もそれを心得て、隣近所の見守りをしていくことが大切だと感じた。
- ・大変な活動もあり、活動会員さんの生活もある中、頑張っている人たちがいることに感心しました。やはり高齢者に接する事が多いので、見守りながらも倒れていたりした場合の対応は落ち着いて行動すべきだと思いました。
- ・これからますますたすけあいの会が必要とされる中で、見守り活動についてはしっかり学習する必要があると思います。
- ・活動中の課題を共有し、緊急事態への対応の仕方を作ることが大切と感じました。
- ・ほのぼのとした活動事例と生命に関わる深刻な活動の両極を知ることができました。特にこれからは後者に関わる内容が多くなるのでは。
- ・活動状況を定例会で論議する事の大事さがわかった。
- ・一人の活動会員に負担がかからないように、フォローは忘れないようにして欲しい。